

○石牟禮武志専門委員（塩野義製薬株式会社渉外部専任部長）

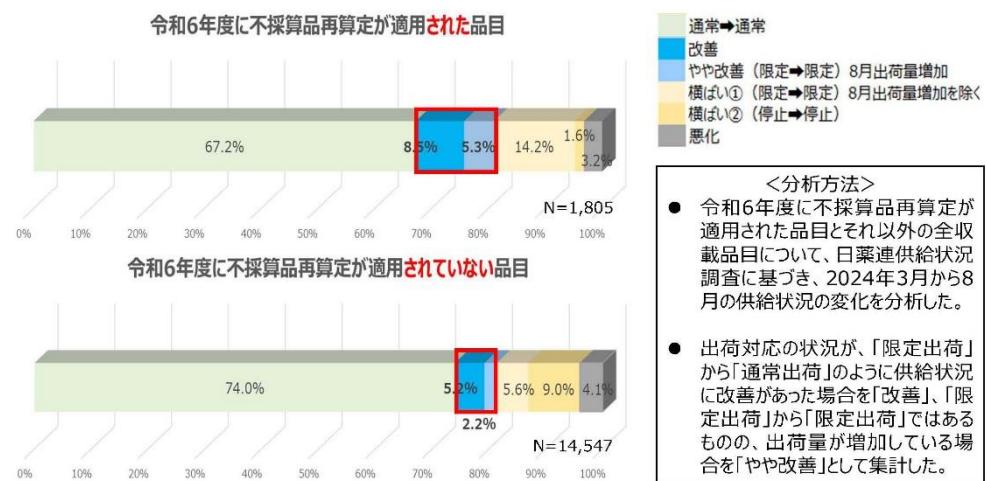
専門委員の石牟禮でございます。本日、委員の皆さま方からいただきましたご意見、あるいは事務局より回答されました回答につきまして少し補足も兼ねてコメントさせていただければと思います。

まず、2年連続で特例的に不採算品再算定を適用をいただいたということにつきましては、改めて、私、専門委員の立場としても感謝を申し上げたい、というところに思っております。

不採算品再算定は、薬価改定全体から見て一定の制約がある中で実施されておりまして、必ずしも各企業の希望どおりに薬価が引き上げられるものではないというのが実態と認識しておりますけれども、

令和6年度不採算品再算定適用品目の供給状況に関する分析

- 不採算品再算定を適用された品目の約70%は、不採算品再算定が適用される以前から安定供給を続けている。
- 不採算品再算定適用前後における各品目の供給状況を確認したところ、不採算品再算定が適用された品目のほうが、適用を受けていない品目に比べ供給状況が改善した割合が高かった。



- ＜分析方法＞
- 令和6年度に不採算品再算定が適用された品目とそれ以外の全収載品目について、日薬連供給状況調査に基づき、2024年3月から8月の供給状況の変化を分析した。
 - 出荷対応の状況が、「限定出荷」から「通常出荷」のように供給状況に改善があった場合を「改善」、「限定出荷」から「限定出荷」ではあるものの、出荷量が増加している場合を「やや改善」として集計した。

10

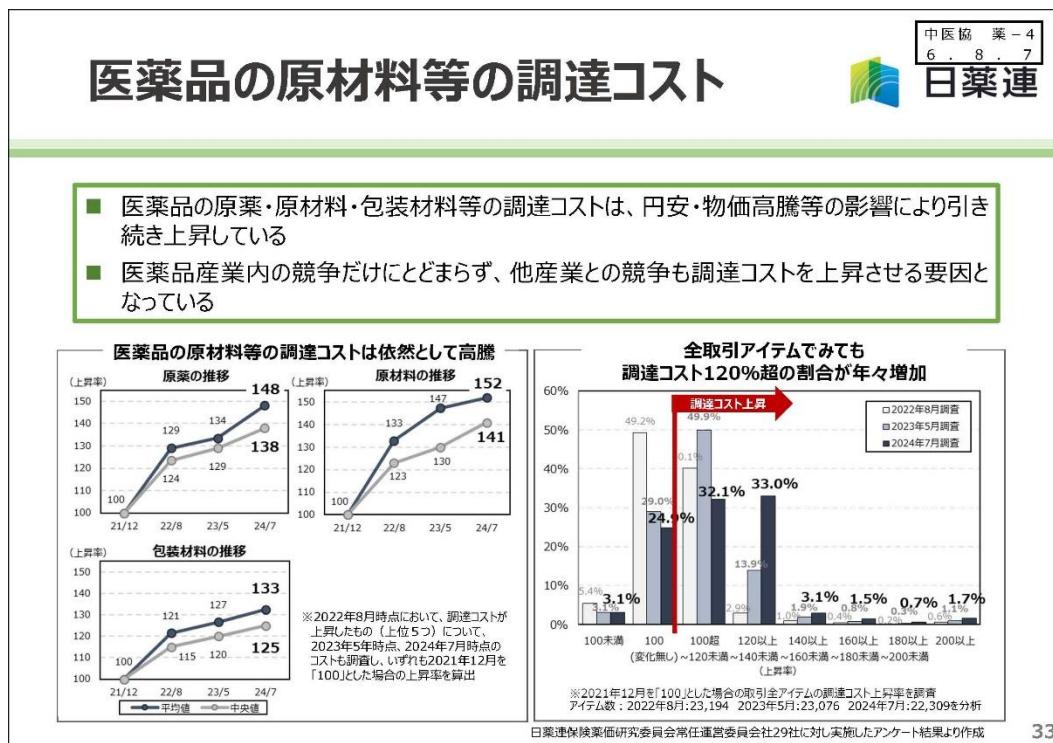
不採算品再算定が適用された品目におきましては、本日の資料 10 ページにございますように、通常出荷を継続している品目が大半であるということ。

それから、再算定がですね、例えば、原材料の調達ですとか、人材の確保など必要な投資への下支えになったものというふうに考えております。

一方で、松本委員からもご指摘ありましたように、供給に支障が生じる理由には、このグラフで「悪化」した例もあったことに関連しますが、例えば、先ほど水谷課長より、ご回答いただきましたような他社品の影響によって増加した需要に対応しきれていないという場合ですとか、

やはり、原材料の調達、これは世界レベルで起こっている取り合いの状況がございますので、そういった状況に問題が生じているとか、製造におけるトラブルが図らずも発生してしまうと。品質面でのトラブルが発生してしまうといった形で、直接的に、この採算性に関わる部分ではないことが発生理由としてあったということも確認しております。

患者様をはじめ、医療現場の皆さま方に、ご迷惑をおかけしておりますことを大変申し訳なく存じますが、安定供給の確保に向けて企業としては各社、努めているところでございます。何卒、ご理解を賜りたく、お願い申し上げます。



また、8月の意見陳述で業界代表からお示しました、本日の資料の、アpendixにも付いておりますが、原価高騰等の状況、原材料コストの、調達コストの上昇によって、さらに採算性が厳しいという状況は、傾向が続いていると認識をしております。

例えば、増産要請に対応している低薬価品目等につきまして、限定期に、中間年改定の実施いかんにかかわらずですね、投資を下支えしていただく措置もご検討いただければ幸いにございます。

必ずしも不採算品再算定の適用品目を拡大したいということはございませんで、昨年の意見陳述におきましても必要な品目に適切に対応していただきたいというのが業界の意見でございますので、その点につきましても、ご理解賜れば幸いでございます。以上でございます。

○安川文朗部会長（京都女子大学データサイエンス学部教授）

はい、ありがとうございました。何か追加で、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ほかにご質問等もないようでしたら、本件に係る質疑はこのあたりとしまして、今後、事務局において、本日いろいろご提案等もありましたけれども、それを踏まえまして、ご対応をいただきますように、お願いいいたします。

本日の議題は以上です。次回の日程につきましては、追って事務局より連絡いたしますので、よろしくお願いいいたします。

それでは、本日の薬価専門部会は、これにて閉会といたします。どうもありがとうございました。

（5分後に調査実施小委員会へ）